Ｉ ０１－０１

研究報告　　第４３７号

幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続を図るカリキュラムについての研究

平 成 ３ １ 年 ３ 月

千 葉 県 総 合 教 育 セ ン タ ー

幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続を図る

カリキュラムについての研究

千葉県総合教育センター
カリキュラム開発部研究開発担当
研究指導主事　黒川　健二

1　主題設定の理由

(1)　幼児期の教育と小学校教育のつながり

平成 29 年３月に幼稚園教育要領等において「知識及び技能の基礎」、「思考力、判断力、表現力等の基礎」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱から構成される資質・能力を一体的に育むように努めることが示された。また、新学習指導要領において「生きる力」を育むため、全ての教科等の目標及び内容が「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理された（図１）。

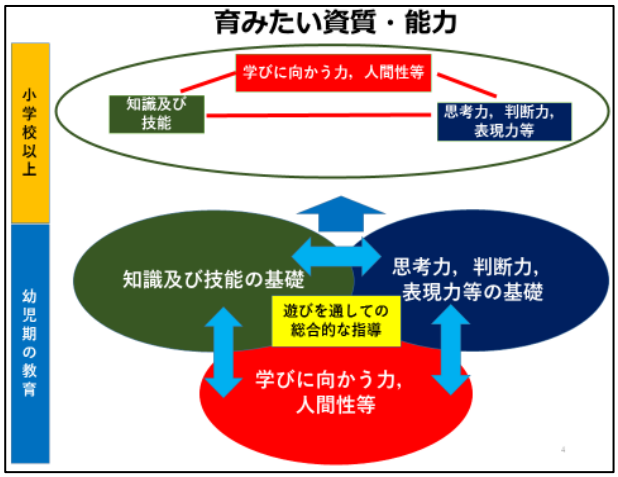


図１　幼児期の教育と小学校教育で育みたい資質・能力

このことは、幼児期から学校段階等を越えて共通の資質・能力の育成に努めることを示している。特に、幼児期から児童期においては、発達の流れを理解することや教科間の関連を積極的に図ることが示されている。このようなことから、幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の重要性が高まっている。

(2)　千葉県の保幼小連携・接続の実態

千葉県内の幼児教育施設数は、公立小学校に比べて多くなっており、多様な幼児教育施設から一つの小学校に入学している（表１）。このことが、連携・接続の取組を図りにくくしている要因の一つである。

表１　千葉県施設別数（H30 年度）

施　設	数
幼児教育施設	1333
公立小学校	803

また、平成 29 年度の「千葉県の市町村における保幼小連携・接続の状況調査」の結果では、授業、行事、研究会などの連携が充実し、接続を見通した教育課程の編成・実施が行われている市町村は、合わせて４割ある。近年この数値は増加傾向にあり、県内では確実に連携・接続の取組が高まりつつあることが伺える。しかし、一方で接続を見通した教育課程の編成・実施が行われていない市町村も半数以上あり、市町村により取組に差が出ている状況がある。

そこで、幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について、幼児期の教育と小学校教育の接続のカリキュラムをどのようにつなげていくか、活動実践をどのような視点で行うか、保幼小接続の体制作りをどのようにするかを明らかにするために、本主題を設定した。

2　研究の目的

接続期のカリキュラム千葉県モデルプラン作成を通して、幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方を明らかにする。

3　研究計画

(1)　平成 29 年度

ア　基礎研究(文献、実態調査)

イ　カリキュラム作成ワーキンググループ会議（年５回）

ウ　５歳児の学びのカリキュラムの活動（計画、実践、振り返り）

(2)　平成 30 年度

ア　スタートカリキュラム（小学校教育）の活動（計画、実践、振り返り）

イ　カリキュラム作成ワーキンググループ会議（年５回）

ウ　接続期のカリキュラム千葉県モデルの作成（協議）

4　研究概要

(1)　接続期のカリキュラム作成

ア　接続期のカリキュラム

そもそも幼児期の教育と小学校教育は、教育課程の編成や教育方法等に違いがある。また、幼児期の教育は、幼児の発達の側面から５領域（健康、人間関係、環境、言葉、表現）が示され整理されているが、小学校教育の教科等の内容にそのままつながるものではない。

そこで、幼児期の教育と小学校教育を円滑に接続させるためには、カリキュラムを工夫してつないでいくことが必要である。そのつながりをもたせるものが「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(図２)である。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、幼児期の教育における５領域のねらい及び内容に基づく活動全体を通して、資質・能力が育まれている５歳児修了時の具体的な姿であり、保育者が指導を行う際に方向目標として考慮するものである。そして、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえ、小学校教育では、幼児教育施設と小学校が意見交換や合同の研究の機会を設け、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有するなどの連携を図り、幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続を図るように努めるものである。

図２　幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

加えて、幼児期の教育と小学校教育をつながりのある確かなものにするために学びの基礎力の育成期間で

ある幼児期と児童期を一つのつながりの時期（接続期）として捉えてカリキュラムを作成していくことが大切である。接続期のカリキュラムは、５歳児の学びのカリキュラムとスタートカリキュラムで構成し、各々のカリキュラムを「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」でつないでいく。接続期の期間の捉え方は様々であるが、本研究では、５歳児の１０月頃から小学校１年生の７月までに焦点化した（図３）。この時期にした理由として、５歳児の１０月頃に実施される就学時健康診断をきっかけに，子供も保護者も就学への意識が高まること，また，小学校入学後，子供が安心して自己を発揮でき，教科等の学習に移行していく夏休み前までを一区切りと考えたからである。

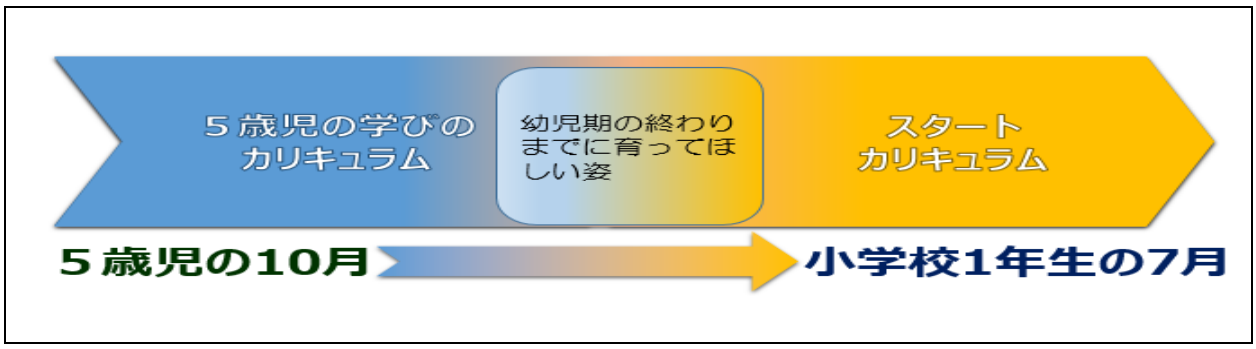


図３　接続期のカリキュラム

イ　５歳児の学びのカリキュラム

５歳児の学びのカリキュラムとは、幼稚園教育要領等で示された幼児期の教育において育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を考慮し、遊びを通しての総合的な指導の中で見方・考え方を育む学びのカリキュラムである。育まれている資質・能力の具体的な姿である「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を方向目標として経験カリキュラムを再構成する（図４下）。

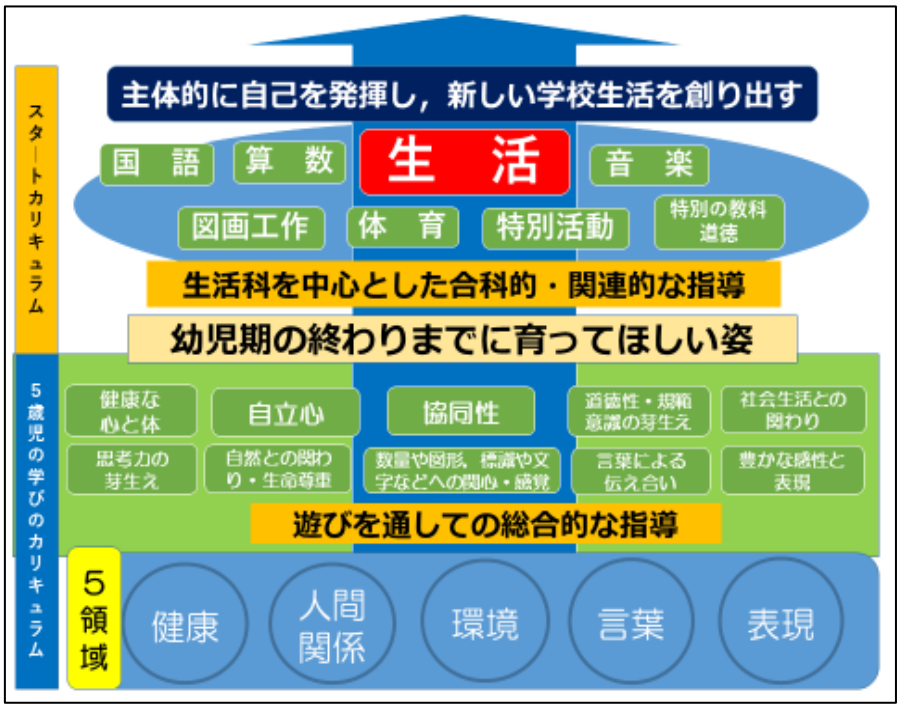


図４　接続期のカリキュラムの概念図

ウ　スタートカリキュラム

スタートカリキュラムとは、資質・能力の育成を基本とし、小学校に入学し

た児童が、幼児教育施設等において経験した遊び、生活を通した学びや育ちを基礎として、主体的に自己を発揮し、新しい学校生活を創り出していくためのカリキュラムである。幼児期に経験してきたことや学び等を踏まえて、教科カリキュラムを再構成する。生活科を中心とした合科的・関連的な指導を含め、子供の生活の流れの中で、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を発揮できることを踏まえた指導を工夫することにより児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かい、幼児期の教育を通して育まれた資質・能力をさらに伸ばしていくことが重要である(図４上)。

(2)　活動実践について

ア　活動実践上の接続の視点

５歳児の学びのカリキュラムの活動実践では、主に育った「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が、小学校教育の教科等にどのようにつながるか、スタートカリキュラムの活動実践では、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに、幼児期に経験したことや学びをどう発揮したか、保幼小の職員同士がお互いの立場で情報を交換し合い、相互の各活動実践をつなげていくことが大切である。接続期に行われる各活動実践が「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに、どのような位置付けになり、接続期のカリキュラムにおいて、どのような子供を育てていくのかを見据えて実践を進めることが望ましい。

イ　５歳児の学びのカリキュラムの活動実践

(ｱ)　目的

・活動参観を通して「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が、具体的にどのように表れているのかを見取る。

・本活動が、小学校教育とどのようなつながりがあるかを協議する。

(ｲ)　実践

No.	実施月	活　動　名	実　施　施　設
1	10 月	収穫祭をしよう	富津市立中央保育所
2	11 月	焼き芋会をしよう	浦安市 みのり保育園
3	11 月	みんなでそうだんしよう	館山市立九重こども園
4	11 月	レストランごっこ	木更津市 岩根みどり幼稚園
5	12 月	こままわしをしよう	浦安市 みのり保育園
6	１月	ゆうびんやさんごっこ	千葉市 めぐみ幼稚園
7	１月	指人形劇	千葉市 めぐみ幼稚園
8	１月	最後までがんばろう	館山市立九重こども園
9	１月	いろんなたねをしぼろう	浦安市 みのり保育園
10	２月	乗り物体験ツアー	富津市立中央保育所
11	２月	お店やさんをしよう	浦安市立青葉幼稚園
12	２月	ドッジボール大会に向けて	木更津市 岩根みどり幼稚園

(ｳ)　具体的な実践例

実践例　２月　浦安市立青葉幼稚園「お店やさんをしよう」

○主に育った「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の表れ

【協同性】
仲間で協力してお店作りをする。

【言葉による伝え合い】
迷路について話し合う。

【数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚】
お店の案内を書く。

【道徳性・規範意識の芽生え】
迷路遊びを順番に並んでする。

○本活動が、小学校教育のどの部分とどのようなつながりがあるか。

・お店やさん作りのために、みんなで協同して取り組むことは、特別活動の「学級全体の活動に喜んで参加し、友達と協力しながら自分の力を発揮する。」ことにつながる。
・お店やさんごっこのルールや流れが分かり、守ろうとすることや、３、４歳児の子供に温かい心で接し、親切にすることは、特別の教科　道徳の「規則の尊重」「親切、思いやり」につながる。
・お店やさん作りの過程での言葉による伝え合いは、国語の「相手に伝わるように考えたことを伝えたり、相手の話を聞いたりする。」ことにつながる。
・必要な品物の数に気付き、数えたり、数で表したりすることは、算数への関心につながる。
・身近な材料を使って、考えたり工夫したりしながら品物作りをすることは、図画工作の表現につながる。

ウ　「スタートカリキュラム」の活動実践

(ｱ)　目的

・活動参観を通して「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が、具体的にどのように発揮されているのかを見取る。
・本活動が、幼児期に経験してきたことや学びとどのようなつながりがあるかを協議する。

(ｲ)　実践

No.	実施月	活　動　名	実　施　施　設
1	４月	みんななかよしーともだちつくろうー	白井市立桜台小学校
2	４月	すきなものなあにーすきなものをつたえようー	柏市立藤心小学校
3	４月	がっこうたんけんにいこう	白井市立桜台小学校
4	４月	がっこうだいすきーがっこうをたんけんしようー	柏市立藤心小学校
5	４月	わたしのがっこうどんなところーがっこうたんけんにしゅっぱつー	勝浦市立勝浦小学校
6	５月	わたしのがっこうどんなところーきいて！おしえて！みつけたことー	勝浦市立勝浦小学校
7	６月	わたしのつうがくろ	成田市立加良部小学校
8	６月	まねっこあそび・かけっこあそびをしよう	我孫子市立我孫子第一小学校
9	７月	おもしろいあそびがいっぱい	印西市立高花小学校
10	７月	いろみずあそびをしよう	柏市立藤心小学校
11	７月	だいすきなつーしゃぼんだまをとばそうー	茂原市立豊岡小学校

(ｳ)　具体的な実践例

実践例　４月　白井市立桜台小学校「みんななかよしーともだちつくろうー」

○主に育った「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を発揮した様子

【豊かな感性と表現】
ゲームの中で喜びが出ている。

【道徳性・規範意識の芽生え】
ルールについて先生の話を聞く。

【言葉による伝え合い】
「友達になろうね。」等と言葉を交わし合う。

【社会生活との関わり】
２年生と出会い、挨拶をする。

○本活動が、幼児期に経験してきたことや学びとどのようなつながりがあるか。
・幼児教育施設では、言葉や人数を意識させるようなゲームを多く経験している。ゲームの内容によって人数が多い、足りない等の時は、「何人足りない。」「どうする？」「こっちに来てくれる？」と声を掛けたり、困った時は相談したりする様子が見られる。
・日常的に歌を歌ったり、手遊びをしたりして、簡単なリズム遊びや楽器遊びはたくさん経験している。また、曲に合わせて体を動かしたり、自分で考えた表現をみんなの前で見せたりしている。

(3)　保幼小接続の体制作り

ア　保幼小連携の進め方

保幼小の連携を進めていくには、一度に全てを解決する方法はなく、一歩ずつ理解と協力をしながら進めていくことが望まれる。近隣の幼児教育施設や小学校について、情報を共有するために教職員等が顔合わせをするところから始め、それぞれが年間計画に保育・授業参観、行事への招待などを組み入れていくようにすることが大切である。

なお、保幼小連携の充実に向けては、幼児や児童の双方に互恵性のある活動になるように留意し、教職員等で事前の打ち合わせや振り返りを行い、子供たちや学びの様子を把握し、接続期のカリキュラム作成につなげていく。

イ　カリキュラムモデルプラン

接続期のカリキュラムは、幼児教育施設と小学校で作成したカリキュラムが、どのように連携・接続しているのか、一目でわかることが望まれる。

そこで、図５のような全体イメージが必要となる。このイメージ図は、各幼児教育施設と小学校が「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」でどのようにつながっているかを示す上段部分と幼児教育施設と小学校が互いに協議しながら交流・連携活動計画を作成する下段部分から構成されている。

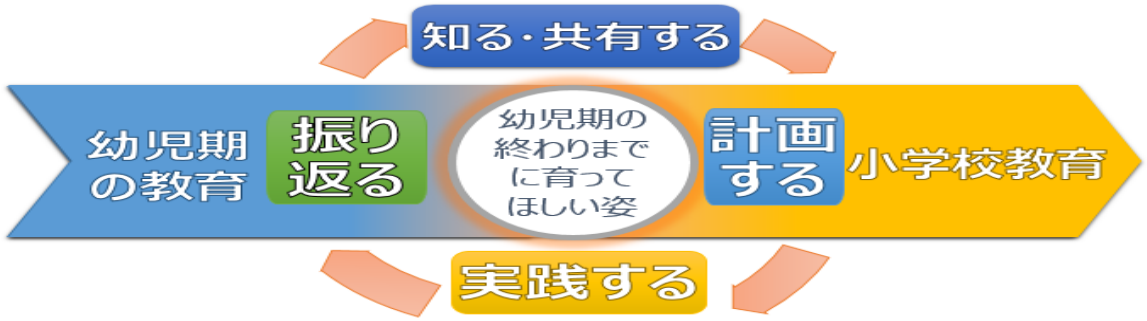
図５　接続期のカリキュラムの全体イメージ

ウ　保幼小接続サイクルの体制作り

接続を図るためには、幼児期の教育と小学校の教育をつなぐための体制や保幼小の職員が、指導要録等を介して接続期における子供の発達や学びを共有す

ることが大切である。さらに接続期の子供の発達や学びを共有するために、接続期のカリキュラムの作成に向けた保幼小接続体制を構築することが望ましい。

保幼小の関係者が顔を合わせ、双方の教育の特徴や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を中心に育成したい子供たちの姿を共有しながら、以下の「知る・共有する」「計画する」「実践する」「振り返る」の４つの過程を通して、接続期のカリキュラムを全職員が参加して作成し、サイクルとして回していくことが大切である(図６)。



「知る・共有する」	参観や研修会等で保幼小の教育の違いを知り、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を保幼小の職員が共有する。
「計画する」	５歳児の学びのカリキュラム、スタートカリキュラムの全体計画や具体的な活動を立案する。
「実践する」	５歳児の学びのカリキュラム、スタートカリキュラムを計画に基づいて実践する。
「振り返る」	５歳児の学びのカリキュラム、スタートカリキュラムの活動実践を「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに、主にどのような姿が表れたか（発揮されたか）の視点をもつ。また、幼児期の教育や小学校教育とどのようなつながりがあるかを話し合い、次回の計画に反映させる。

図６　保幼小接続のためのサイクル

５　成果と課題

(1)成　果

・各幼児教育施設と小学校が「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有する中で、子供の幼児期の経験や学び、小学校教育とのつながりを理解し合い、接続期のカリキュラム作成、保幼小接続サイクルの体制作りが大切であることが明らかになった。

・幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続を図るためのカリキュラムのモデルを冊子にまとめ、県内の全幼児教育施設や小学校に配付及び、本センターWebサイトからダウンロードできる体制を整えることができた。

(2)課　題

・接続期のカリキュラム千葉県モデルプランの有効性の検証をどのように図るか。

・小学校における教科学習に移行する活動実践の実践的検証をいかに行うか。

6　カリキュラム作成ワーキンググループ委員

所　　属	職	委員名	備　考
葛南教育事務所	指導主事	土屋　雅子	
東葛飾教育事務所	指導主事	加藤　貴久子	
北総教育事務所	指導主事	髙塚　啓子	
東上総教育事務所	指導主事	木島　千景	
東上総教育事務所	指導主事	永島　絹代	２９年度委嘱
南房総教育事務所	指導主事	廣瀬　秀和	
船橋市教育委員会	副主幹	青木　孝憲	
印西市教育委員会	指導主事	市村　正美	
めぐみ幼稚園	園長	杉森　信幸	
みのり保育園	施設長	芝﨑　章吾	
岩根みどり幼稚園	園長	平野　貴	
富津市立中央保育所	所長	渡辺　久美子	
館山市立九重こども園	主幹保育教諭	石橋　雅代	
浦安市立青葉幼稚園	主任教諭	浅沼　美穂子	
習志野市立谷津小学校	教諭	小島　瑠理子	
印西市立高花小学校	教諭	佐藤　祐子	
勝浦市立勝浦小学校	教諭	吉野　里美	
白井市立桜台小学校	教諭	小川　友子	
柏市立藤心小学校	教諭	島田　朋美	

7　　活動実践協力幼児教育施設・小学校

（1）活動実践協力幼児教育施設

めぐみ幼稚園　　岩根みどり幼稚園　　第二みどり幼稚園
富津市立中央保育所 みのり保育園　　浦安市立ふたば保育園
浦安市立青葉幼稚園　　館山市立九重こども園　　茂原市立豊岡幼稚園
船橋市立湊町保育園　　船橋幼稚園　　勝浦市立勝浦幼稚園
勝浦市立中央保育所　　千葉大教育学部附属幼稚園

（2）活動実践協力小学校

柏市立藤心小学校　　船橋市立湊町小学校　　印西市立高花小学校
勝浦市立勝浦小学校 白井市立桜台小学校　　印西市立大森小学校
浦安市立東小学校　　茂原市立豊岡小学校　　成田市立加良部小学校
我孫子市立我孫子第一小学校

8　情報提供協力市町

船橋市　印西市　浦安市　鎌ケ谷市　野田市　勝浦市　茂原市　鴨川市
袖ケ浦市　多古町

9　運営事務局

所　属 千葉県総合教育センター	職	担当者名	備　考
研修企画部	幼児教育アドバイザー	生駒　敏子	
	幼児教育アドバイザー	大橋　由美子	
	幼児教育アドバイザー	高倉　幸世	
	幼児教育アドバイザー	平岡　立行	
カリキュラム開発部	部長	古市　利行	
	部長	豊城　勲	２９年度担当
	主席研究指導主事	佐々木昌文	
	主席研究指導主事	君塚　信宏	
	研究指導主事	黒川　健二	主担当
	研究指導主事	桂　　幸一	
	研究指導主事	米本　英裕	
	研究指導主事	神澤　光	担当
	研究指導主事	稗田　隆二	担当
	研究指導主事	渡部　悠介	
	研究指導主事	福中　義宏	２９年度担当
	研究指導主事	田中　宏知	２９年度担当
	研究指導主事	初芝　亨	２９年度担当
	研究指導主事	栗田　智晃	２９年度担当
	研究指導主事	渡邉　千也	２９年度担当

千葉県総合教育センター研究報告第４２７号

テーマ　　幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続を図るカリキュラムについての研究
研究対象校　幼稚園・保育所・認定こども園・小学校
研究領域　　教育課程　保育内容・保育方法　教育内容・教育方法

幼児教育施設、小学校、行政等の職員による作業部会を組織し、接続期の子どもの育ちを支える事例等を収集・実践・分析することで、保幼小の円滑な接続の在り方を明らかにし、県モデルプラン作成する。

【検索語】　接続期　スタートカリキュラム　保幼小の接続
５歳児の学びのカリキュラム　幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

＊本調査研究の「研究報告書」及び研究成果物「接続期のカリキュラム千葉県モデルプラン　５歳児の学びのカリキュラム　スタートカリキュラム」は、千葉県総合教育センターWeb サイトよりダウンロードすることができます。

研究報告　第４２７号

平成３１年3月３１日

編集発行者　千葉県総合教育センター
所長　秋元　大輔

発 行 所　　千葉県総合教育センター

〒261-0014　千葉市美浜区若葉２丁目１３番

ＴＥＬ　０４３（２７６）１１６６
ＦＡＸ　０４３（２７２）５１２８